

## 誓いのことば

林業後継者、森林ボランティア、緑の少年団を代表して  
力強い誓いのことばが述べられました。



林業後継者代表  
愛媛県林業研究グループ青年会議  
菊池 俊一郎さん

緑豊かな森林は、地球温暖化防止をはじめ環境の保全に重要な役割を果たし、私たちの生活を支え、限りない恵みを与えてくれています。

私たち林業後継者は、林業の発展とともに森林の持つ機能を十分発揮できるよう、「森林そ生」を目指した取り組みを続け、このかけがえのない森林を未来へと引き継いでいくことを誓います。



森林ボランティア代表  
石鎚水源の森くらぶ  
佐伯 久美子さん

先人たちの努力により育まれてきた緑あふれる山々も、将来にわたってその恵にあずかるためには、たゆまぬ森づくりが不可欠です。

私たち森林ボランティアは、森林を愛する多くの仲間たちと手を携え、これから「森をつくる」、「森とくらす」、「木をつかう」、これらの活動に努め、次の世代へと引き継いでいくことを誓います。



緑の少年団代表  
日浦 緑の少年団  
永井 智也さん

僕たち緑の少年団は、先輩たちから引き継いだ、美しい愛媛の森林を育てる活動を通して、森林の恵みに感謝する気持ちと、守り育てる大切さを学びました。

この活動の輪を、仲間たちとともにこれからも大きく広げ、後輩たちへとしっかり引き継いでいくことを誓います。



## 大会宣言

「育てよう 緑あふれる 日本の未来」をテーマに開催した第32回全国育樹祭の大会宣言が高らかに読み上げられました。



国土緑化推進機構  
理事長

佐々木 毅

地球温暖化等の環境問題が注目され、森林の有する多面的な機能への期待が高まる今日、その機能の効果的な発揮に向け、一体となって森林環境を整備・保全していくことは、私たちに課せられた大きな使命である。

森の恵みである木材をふんだんに用い、そのぬくもりに包まれたここ「愛媛県武道館」において開催された第32回全国育樹祭に当たり、私たちは、森林との共生を図りつつ先人から受け継いだ、かけがえのない森林をより豊かなものに育て、次代へと引き継いでいくことを目指して、次のことを宣言する。

- 一 多面的な機能を有する森林との共生について、国民の認識を深めるとともに、「国民参加の森林づくり」を一層推進する。
- 一 森の恵みである木材等の積極的な利活用を通じ、健全な森林の育成と林業・山村の活性化を推進する。
- 一 森林とふれあい、親しむ機会を拡げること等により、将来の森林づくりを担う健全で心豊かな青少年の育成に一層努力する。

平成20年10月26日 第32回全国育樹祭

## 次期開催県あいさつ



長崎県知事

### 金子 原二郎

本日ここに、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、第32回全国育樹祭が、このように盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げますとともに、先程の式典が大変素晴らしい感動いたしました。

次期開催県であります長崎県は、古くから海外に開かれた歴史と文化に満ちあふれたところでありますとともに、「雲仙天草」、「西海」の二つの国立公園をはじめとした海と山が織り成す豊かな自然環境に恵まれた地域でもあります。

一方で、長崎大水害や雲仙普賢岳噴火災害という未曾有の大災害を経験してきた私たちは、改めて社会資本としての緑の大切さを痛感し、県民共通の財産として恵み豊かな森林を、将来の世代に引き継いでいくことが、現在に生きる私たちに課せられた大きな使命であると考えています。

このため、「環境優先の社会づくり」を県政の重要な柱として位置づけ、県民総参加による森林の再生に向けた活動を進めているところであります。

来年の秋に開催します「第33回全国育樹祭」では、こうした取り組みを踏まえ「未来へと夢をつないで 育てる緑」を大会テーマといたしまして、県民はもとより、国民お一人お一人が、森林に学び、その恵みに感謝し、そして美しい森林を育み、子どもたちへ引き継いでいく気運を高めてまいります。またかつて西洋にも開かれた窓口として培われてきた長崎県民が持つ「おもてなしの心」で長崎県らしい緑の祭典をもって皆様をお迎えしたいと思っております。

開催地の雲仙市百花台は雲仙普賢岳のふもとに位置し、近くにはシーボルトにより海外にも紹介された「雲仙温泉」や、湧水と歴史の街「島原」、高校サッカーで活躍をした国見に隣接する風光明媚な地域であります。どうぞ、県民一同、心からお待ち申し上げますので、多くの皆様にお越しいただきますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

## 閉会のことば



松山市長

### 中村 時広

皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、「育てよう 緑あふれる 日本の未来」を大会テーマとした第32回全国育樹祭の式典が、滞りなく閉会できることを大変喜ばしく思います。

本日、全国各地より御参加いただいた皆様方には、ご多忙の中、早朝より「坂の上の雲」のまち松山にお集まりいただき誠にありがとうございました。

本祭典を契機として、森林や緑を守り育てることの大切さが再認識され、恵み豊かな環境が、次の世代に引き継がれますことを皆様とともに強く祈念をし、閉会のことばとさせていただきます。



## エピローグ

式典音楽隊による松山市のメッセージソング「この街で」の演奏、吹奏楽隊による「情熱大陸」の演奏、松山まつり名物「野球拳おどり」と続き、内子高校郷土芸能部による太鼓演奏によって、式典は華やかに幕を閉じました。

